

# 開校記念日に寄せて

令和元年11月2日  
長崎県立佐世保中央高等学校

11月2日は、佐世保中央高校の開校記念日です。開校記念日を機に、本校の歩みを振り返ってみました。

佐世保中央高校は、昭和52年4月に開校しました。全国的にみると昭和23年に定通教育制度が発足以来、働きながら学ぶ青少年の拠り所となってきた定時制・通信制高校は、社会の経済的成熟とともに在籍者も減少を続け、次第に統合の方向に進みつつありました。

その流れは佐世保にも及び、それぞれの歴史と伝統を築いてきた「佐世保市立高等学校」、「佐世保市立商業高等学校」、「県立佐世保北高等学校定時制課程」、「県立佐世保南高等学校通信制課程」の4つが統合され、新しく定時制・通信制の県立独立校として、本校が誕生したのです。1年後には、「県立北松南高等学校定時制課程」を追加統合し、新しいタイプの定時制高校がスタートしました。

平成5年には、単位制（現在の昼間部）課程が開設され、平成8年に通信制課程が【単位制による通信制課程】に、単位制課程が【単位制による定時制課程昼間部】に、定時制課程が【単位制による定時制課程夜間部】に改称しました。また、平成30年に夜間部に、生活スタイルの多様化と人々の学びたい気持ちに対応できる、昼から学ぶ「エンカレッジコース」がスタートしました。

平成9年度には、万徳町校舎から新築された梅田校舎（現校舎）に移転し、勤労と勉学の両立という厳しい条件に耐えながら本校を卒業され、多くの先輩諸氏が広く社会の中堅として活躍しておられることは、誠に頼もしく誇らしい思いがします。

佐世保中央高校は、新たな思いを胸に、次の時代へのスタートラインに立っています。伝統とは、佐世保中央高校の先輩達だけがつくるものではありません。現在の生徒諸君が、これまでの歴史に新たな1ページを記してこそ受け継がれるのです。



これまで先輩方が積み重ねた日々と、これから積み上げていく皆さんの1日1日が、中央高校の歴史となっていきます。そのことをかみしめながら母校を愛し、11月2日の一日を有意義に過ごしてほしいと思います。

